

令和6年度普及活動アルバム

佐久農業農村支援センター

令和6年度は、農業政策の憲法とも云われる「食料・農業・農村基本法」が制定から四半世紀を経て初めて改訂され、農政の大きな変革期を迎えた年でした。国民生活はコロナ前に戻りつつあり、首都圏から佐久地域への移住が進み、農業農村の在りようが急速に変わってきていることを感じる状況となりました。

佐久農業農村支援センターでは、重点活動として「低コスト水稲生産と水田作の収益性向上」、「持続可能な葉洋菜産地に向けたグリーンな栽培体系への転換」をテーマに、12項目の達成指標実現のため、普及活動を展開してきました。

20人の職員が日々の普及活動に励み、農業者と信頼関係を築き、市町村等関係機関と連携した課題解決活動を展開し、大きな成果につながりました。



【4月】【重点課題】 低コスト水稲生産と水田作 の収益性向上

佐久地域の水田で課題となっている雑草イネ防除の推進を図るため、防除対策実証ほを設置して、防除対策の効果について検証しました。

除草剤による体系防除やていねいな代かき、抜き取り等を組み合わせた防除対策の効果を確認しました。今後、普及を図っていきます。



【5月】【重点課題】 持続可能な葉洋菜産地に向 けたグリーンな栽培体系への 転換

緑肥導入による減化学肥料栽培の推進のため、緑肥導入事例の収集を行うとともに、減化学肥料につながる栽培体系の検討を行いました。新規緑肥作物導入に向け、土壌調査も実施しました。

これらをもとに緑肥作物の栽培方法等をまとめた「南佐久緑肥栽培指針」を作成しました。



【6月】

J A 佐久浅間白田有機米部 会への支援

有機農業で水稻栽培に取り組む J A 佐久浅間白田有機米部会と共催で、有機栽培で課題となる除草対策を検討するため、水田除草機実演会を開催しました。

除草機は高性能で除草効率は高いですが、高価であるため補助事業の活用や共同利用等さらに検討を進める必要があります。



【6月】

レタス収穫機の有効活用 に向けた取組

国内で初めてレタス収穫機を導入した御代田町の農業法人と手収穫との比較とし、収穫機を用いた際の作業時間や収穫物のロス率等について調査しました。

収穫に必要な時間は大きく削減できますが、可食部を深切りする等のロスが発生するため、加工向けレタスで活用していくことになりました。



【7月】

就農相談スキルアップ研修会

佐久地域は首都圏から近く、移住・就農の相談が多い地域です。就農相談のポイントについて、関係機関で意識統一を図るとともに、就農相談対応のスキル向上を図るため、市町村や農業委員会、J A 職員を対象に研修会を開催しました。産地として明確な就農ガイドを示し、その内容を理解した希望者が相談に来る体制づくりを目指します。



【8月】

小諸市のもも振興の取組

小諸市は伝統ある産地としてもも栽培が盛んですが、近年栽培者の高齢化等により担い手が減少しています。

そこで、ブランド「浅間水蜜桃」のイベント「ASAMA PEACH FESTIVAL2024」で市とJAとともに、就農相談を開催しました。8名の相談があり、新規栽培者の掘り起こしに繋がりました。



【9月】

プルーンの生産・消費振興のための取組

佐久地域特産であるプルーンの生産振興と消費拡大に取り組んでいます。本年度は地元のケーキ屋さん5店の協力により、長野県が開発した品種「オータムキュート」を使ったスイーツスタンプラリーを開催しました。ラリーは非常に好評で、プルーンの魅力を伝えることが出来ました。



【10月】

立科町における地域計画策定支援

将来の農業と農地利用の姿を考える地域計画の策定に向け、立科町で10月から町内13地区で懇談会が開催されました。10年後の耕作者を決める目標地図の策定と担い手不足や荒廃農地、鳥獣害等の課題についての話し合いが行われ、県下の事例紹介や補助事業などの情報提供を行いました。



**【12月】
夏秋イチゴ生産者研修会の
開催**

南佐久地域は県内有数の夏秋イチゴ産地ですが、近年の温暖化で収量低下と難防除病害虫の発生が課題となっています。

12月に開催した生産者研修会では、生育状況や天敵製剤の導入試験結果、天敵の活用方法等について情報提供し、生産者による活発な意見交換が行われました。



**【1月】
「佐久農村女性のつどい」
の開催**

佐久管内の農村女性団体による「佐久農村女性団体連携会議」主催で、「佐久農村女性のつどい」を開催しました。

参加者から前向きな取組を行いたい等との意見が出されるなど県の女性活躍アクションプランの達成に向け、弾みがつきました。



**【2月】
南佐久地域における若手
花き生産者への技術支援**

スプレーマムや輪ギク等の花き生産が盛んな南佐久地域では、新たに参入する若手生産者の支援を行っています。

キクの施設栽培ではアザミウマ類対策が課題ですが、若手生産者とハウス内の越冬状況について温度計を設置する等して調査し、防除意識の向上につながりました。